

新潟市には津波災害の危険があります

地震が起こったら 直ちに避難!

この津波ハザードマップは
しまわずに、常に見える場所
に掲示して、家庭・学校・職場・
地域で活用してください。

- 活用1 津波のおそろしさを学ぼう**
この津波ハザードマップを活用し、津波についての基礎知識を身につけましょう。
- 活用2 津波からの避難路を考えよう**
この津波ハザードマップを用いて、自宅・学校・職場からの避難経路を考えましょう。
- 活用3 津波避難を体験しよう**
安全な場所まで避難する訓練を実施し、実際に身体をつかって試してみましょう。

堤防を巨大津波が越えて町を飲み込んで行く様子 平成23年東日本大震災被災当日の岩手県宮古市役所周辺 宮古市提供

津波による4つの地域特徴

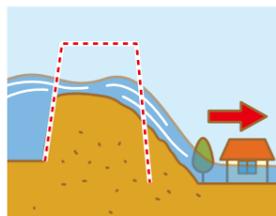
沿岸・沿川地域 緊急避難地域

津波警報を待たずに、直ちに高台や避難ビルへ避難!



沿岸・沿川は、津波襲来までに時間的余裕がありません。津波の情報を待たずに、すぐに高台や避難ビルに避難しましょう。

沿岸地域：津波の力が非常に強く、建物などの構造物を破壊する力を持ちます。海岸では土地が高くとも、津波が勢いよく押し寄せ、被害が出る可能性があります。



沿川地域：地震の揺れによって、堤防等が倒壊し、津波の発生前でも、河川からの浸水が発生します。続いて、津波が河川を遡上(そじょう)し、強い力で堤防を破壊し、被害が、さらに拡大する恐れがあります。

低平地浸水地域 長期浸水地域

高台や避難ビルなど堅牢な建物(コンクリート造)の高層階に直ちに避難!



低平地浸水地域では、地震発生直後から移動を開始し、津波被害が及ばない地域まで避難することが理想的です。

海岸から比較的離れた地域においても、河川を逆流してきた津波の浸水が広い地域で起こります。一度浸水すると、自然に排水されず、長期の浸水状況が想定されます。逃げ遅れると、長期の浸水(たんすい)により、避難生活が長期化します。



津波による低平地浸水 平成23年東日本大震災 宮城県亘理町

河川遡上地域 早期避難地域

河川沿いから直ちに離れて! 高台や避難ビルに避難!



河川遡上地域では、早期避難が必要です。できるだけ川から「遠く、高く」へ避難してください。

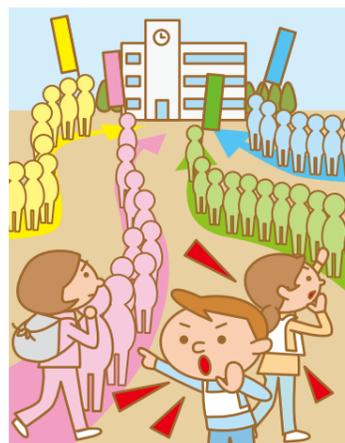
津波は、海岸域だけでなく、川を駆け上りながら、河口から遠く離れた内陸の沿川地域にまで甚大な被害を与えます。これが「津波の河川遡上(そじょう)」です。川沿いから1キロ以上離れた場所でも、河川遡上の影響を受けます。また、船・木材などの漂流物が逆流し、思わぬ破壊力を持ちます。



信濃川を遡上する津波 昭和39年新潟地震 新潟地方気象台提供

避難者受け入れ地域

津波浸水地域外の人は避難者について受け入れを準備!



避難支援地域では、浸水が想定される地域からの避難者を受け入れ、避難生活を支える等の支援が期待されます。避難所、地域の住宅・建物に避難者の受け入れ準備をしてください。

津波による浸水の影響がないことが想定される地域です。しかし「想定外」の地震災害発生により、浸水の危険が全くないわけではありません。十分に注意してください。

津波の前には地震がやってくる

地震のゆれによる建物倒壊



新潟県提供

地盤液状化により傾いた建物



火災による被害

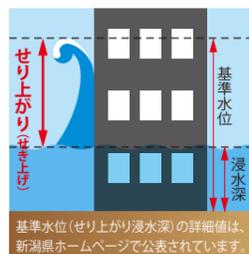


昭和39(1964)年新潟地震では、津波襲来の前にこのような被害が発生しています。これらの状況にも注意しながら、津波から避難をしましょう。

津波についてもっと知ろう

津波のさらなる脅威「せり上がり(せき上げ)」とは…

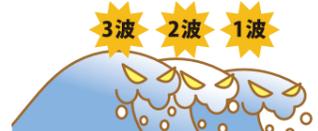
津波が地域に侵入した際に、建物等に衝突し、想定水位(浸水深)より「より高く、より威力をもって、襲いかかる」ことが知られています。これを「津波のせり上がり(せき上げ)」といいます。「4つの地域区分図」の凡例(はんれい)を確認し、住んでいる地域が「せり上がり」の危険性が高いかどうか確認する必要があります。なお「せり上がり」が起こる可能性のある個所は、範囲がたとえ狭くても、津波の威力はさらに甚大となり、深刻な事態を引き起こす可能性があります。より速やかな避難行動が不可欠です。



●基準水位とは、津波災害警戒区域において、避難施設や特別警戒区域内の制限用途の建築物に制限を加える際の基準となる水位。
新潟県ホームページで公表されています。

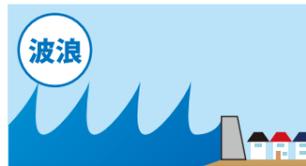
2波、3波と繰り返す

津波は二度三度繰り返してきます。必ずしも第1波が最大とは限りません。津波注意報や津波警報が解除されるまで注意しましょう。

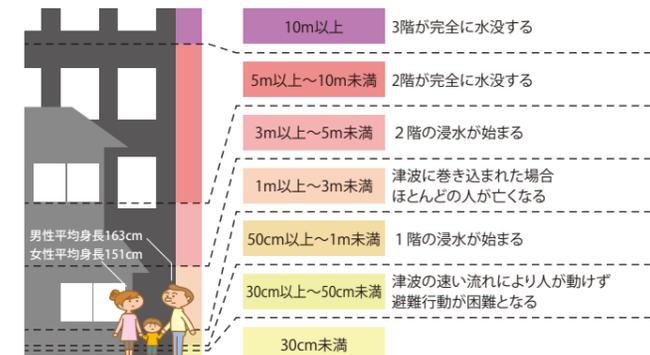


恐るべき津波の破壊力

津波は海底地盤の上下による海水全体の動きのため、海底から海面までの全ての海水が巨大な水のかたまりとなって海岸に押し寄せ、その破壊力はすさまじいものとなります。また、引き波も長時間にわたりひき続けるために、家屋などが一気に海中へと引き込まれてしまいます。



津波による最大浸水深の目安



津波の流れが速い場合は、浸水深が浅くても歩けなくなります。

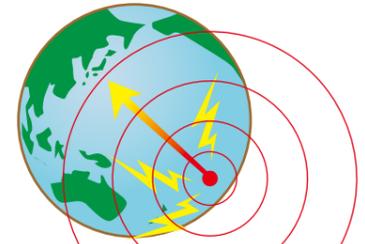
沖合いはジェット機、陸上はオリンピック選手なみの速さ

津波を確認してからでは、間に合いません! ゆれや津波警報が発表されたら、避難を始めてください。津波は沖合ではジェット機速度に匹敵し、陸上ではオリンピックの短距離走選手なみの速さです。人が走って逃げ切れるものではありません。



外国で起こる地震にも注意しましょう(遠地(えんち)津波の発生)

日本ではゆれを感じなくとも、外国で起きた地震が、津波の被害を発生させることがあります。海岸や川沿いに出かけるときは、ラジオを持って行きましょう。



津波に関する情報に注意を!

状況は刻々と変化します。いったん安全を確保してから、情報の入手につとめましょう。

津波警報・注意報とは…

気象庁では津波による災害の発生が予想される場合に、大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。沿岸部での地震では、津波が警報の発令より早く到達することがありますので、ご注意ください。

予報の種類	予想される津波の高さ/数値での発表			巨大地震の場合の表現*
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	10m (5m<高さ≤10m)	5m (3m<高さ≤5m)	巨大
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)			高い
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)			(表記しない)

*マグニチュード8を超える巨大地震の場合は、正しい地震の規模をすぐには把握できないため、その海域における最大級の津波を想定して、大津波警報や津波警報を発表します。

情報の入手方法は…

沿岸部・河口部に設置された「屋外スピーカー(同報無線)」、「緊急速報メール(地震・津波)」が受信可能な携帯電話・スマートフォン、災害時に自動受信が可能な「緊急告知FMラジオ」その他、テレビやラジオ